

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン (第 17 号 2013/8/8 発行)
◆◆◆◆◆ Institute for International Monetary Affairs (IIMA)
◆◆◆◆◆ <http://www.iima.or.jp/>
◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

※本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。
返信をいただいても当方では受け取ることができません。
閲覧には Adobe Reader が必要です。
Adobe Reader のダウンロードはこちらから→ <http://get.adobe.com/jp/reader/>

=====

1. 理事長 行天豊雄のコラム 『迫り来る正念場』

参院選挙も予想通りの結果に終って、アベノミックスはいよいよこれから年末にかけて正念場を迎えることになる。その過程で重要なのは、实体经济の改善のために政府がなすべきことを確実に実行するという事と並んで、その…

(株式会社マネーパートナーズへの寄稿)

(全文はこちらから)
<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2013/20130808gyoten.pdf>

=====

2. 経済調査部長 兼 開発経済調査部長 佐久間浩司のコラム 『IT 革命その後 (下)』

前回、4月のメルマガでは、1990年代後半に起こったIT革命による取引コストと参入障壁の低下、ひいては経済全体の生産性の向上を書きました。そして、結果として我々の幸福度は上がったのだろうかという疑問を投げかけて終…

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

(全文はこちらから)
<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2013/20130808sakuma.pdf>

1. 「国際金融規制改革の現状と新興・途上国への影響」

グローバル金融危機後、国際的な金融規制・監督の見直しが先進国主導で行われてきた。これに対して新興・途上国からは、金融の発展度が先進国とは大きく異なる新興・途上国に対して、より厳しい負担がかかるのではないかと懸念が上がっている。本稿では、規制改革の途上国への影響と、今後の改革を進める上での留意点について考察する。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_20_j.pdf

2. 「ユーロ圏の経済動向 ～周縁国債務問題は最悪期を脱したのか？～」

ユーロ圏周縁国の債務問題は2009年後半以降ユーロ圏諸国を揺るがしてきた。個別国で見ればまださまざまな問題が残るが、欧州レベルでの様々な対応、各国レベルでの構造改革の進展、欧州中央銀行の適切な対応などにより、金融市場はだいぶ落ち着きを取り戻してきた。本稿では、これまで進められてきた対策、残された課題についてまとめた。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_19_j.pdf

3. 「2ヵ月の政治的空白を経て成立したレッタ新政権下のイタリア経済」

イタリアでは2月の総選挙後、各党の連立工作が難航し、政治的空白が続いた。ようやく成立した左右大連立によるレッタ政権は、債務負担、低成長、国際競争力低下など山積みの問題を抱えている。新政権のもとで、これまで進められてきた構造改革路線が大きく変更されるのか、今後の課題について考察する。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_18_j.pdf

4. 「重慶市の戸籍改革は、内需拡大につながるか」

最近、中国で戸籍（中国語で「戸口」）制度改革が加速している。背景には、都市へ出稼ぎ労働をしている「農民工」とよばれる人々の増加がある。彼らは都市戸籍（非農業戸籍）でないため、都市で生活するにあたって、都市市民と比べ社会保障等の公共サービスを十分に受けることができない。本稿では、2010年に全国に先駆けて始まった重慶市の戸籍改革を紹介し、その意義及び課題について振り返ってみたい。

<http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2013/239.pdf>

5. 「Agriculture and Agro-manufacturing Industry in Developing Countries : How to Assess the Agricultural Sector in India?」

6月25日公表の国際経済金融論考「途上国の農業と農業関連製造業について ～インドの農業部門をどう考えるか～」の英文版です。

http://www.iima.or.jp/Docs/report/2013/no3_2013_e.pdf

6. 「米国の低所得層家計実態調査と Financial Inclusion」

インフォーマルな金融システムに留まっている貧困層を、フォーマルな金融制度に取り込むという Financial Inclusion (金融包摂) を実現していく際、鍵となるのは、インフォーマルな制度のポジティブな点を活用する知恵ではないだろうか。それは先進国と途上国に共通したアプローチ。

<http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2013/238.pdf>

■ 今月の IIMA

先月、コンラート・アデナウアー財団と共催で、世界各国の財政金融政策に関するワークショップを開催いたしました。ユーロ圏、米国、日本、それぞれに先進国は財政政策、金融政策の課題を抱え、また途上国は、国際資金フローを通じて先進国の政策の影響を受けるといった懸念を抱えており、活発な議論が展開されました。ワークショップでの議論は、News Letter 等の刊行物で発表する予定です。

参院選の結果は、大方の予想通り衆参両院の多数派を与党が占める6年ぶりの安定政権の成立となりました。これからの2、3年が日本経済再生の成否をかけた正念場となるでしょう。そのような歴史的転換期にはめったに立ち会えるものではありません。8月に入り、今年度下半期実施のいくつかの調査案件が外部機関から入札公示される見込みです。アジア地域の金融制度関連の調査が中心となるものと予想されますが、その他の調査に取り組む際にも、これまで以上に、日本経済の再生という視点を意識したいと思います。

次号：2013年9月10日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

◇発行◇*****

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

***** Copyright (C) IIMA All Rights Reserved. *****